

コントロール不良例の解析 -良好例との比較から-
(分担研究：小児インスリン依存型糖尿病の実態と治療法、長期予後改善に関する研究)

研究協力者 三木裕子

研究要旨：小児期の血糖管理が成人後の糖尿病性合併症に大きな影響を与えることは周知の事実である。DCCTの結果報告以後、HbA1cを7%以下にするためにインスリン強化療法が積極的に取り入れられるようになったが、HbA1c10%以上の患者は多数存在する。15歳未満発症1型糖尿病患者594名に占めるHbA1c10%以上の症例をHbA1c7%未満の症例と比較から、その患者背景、アンケート調査による血糖管理が改善しない理由について検討した。インスリン注射回数、患者の年齢、発症年齢、罹病期間には血糖コントロールの良否で明らかな差はなかった。しかし、HbA1c10%以上の患者は圧倒的に女性に多かった。また、病気の受容に関し、患者、患者の親、主治医へのアンケート調査を実施した結果、コントロール不良群で糖尿病治療による負担度が大きく、患者を取り巻く環境に何らかの問題を抱えていることが明らかになった。

A. 研究目的

思春期の1型糖尿病患者では何年間も血糖管理が不良のまま経過する場合がある。しかし、将来の合併症を考えると少しでも早期に血糖管理を改善させることが重要である。そのためにHbA1c10%以上の高値が持続する患者の背景及び病気の受容に関して解析し、HbA1c7%未満の症例との比較検討を行う。

B. 対象及び方法

対象は小児インスリン治療研究会に登録されている15歳未満発症の1型糖尿病患者594名中、1996年3月-1998年3月の平均HbA1c値10%以上の者(A群)、平均HbA1c値7%未満の者(B群)。発症後1年未満の者、1日インスリン使用量0.5U/kg以下の者を除く。

両群の患者自身、患者の保護者、主治医に郵送によるアンケート調査を実施した。内容は患者及び親に対しては病気の受容、QOLに関して、主治医へは患者をとりまく環境における問題点についてである。

C. 結果

1) 患者背景

小児インスリン治療研究会に登録済みの

データを解析し、2群間の背景を比較した

結果、
A群に女性が多い以外2群間に有意差は認めなかった。

	A群	B群
症例数	65例 (女49,男16)	63例 (女32,男31)
平均年齢	15.1歳 (8.5-21.9)	16.8歳 (9.7-21.8)
平均発症年齢	8.2歳 (0.5-14.7)	8.4歳 (0.1-14.6)
平均罹病期間	7.5年 (3.0-16.1)	8.4年 (3.2-17.7)

2) インスリン注射回数

2群間に明らかな差は認めない。

	4回	3回	2回
A群	64.0%	16.4%	19.6%
B群	69.5%	11.9%	18.6%

3) アンケート結果

【患者自身】

回収 A群 25/65 B群 25/63

Q 糖尿病の治療が嫌だと感じることはありませんか。

	全くない ほとんどない	時々	よくある いつもある
A群	8%	40%	52%
B群	64%	32%	4%

B群 13% 87%
 医師の回答からは A 群でより多くの患者が環境に何らかの問題を抱えていた。

2 群間に大きな差を認めた質問項目

- ・ 糖尿病のために学校生活が制限されると感じるがありますか。
- ・ インスリン注射を負担と感じるがありますか。
- ・ 血糖測定を負担と感じるがありますか。

2 群間に大きな差を認めなかった質問項目

- ・ 親が過保護と感じるがありますか。
- ・ 自分の病気が家族の負担になっていると感じるがありますか。

A 群は B 群に比べ、糖尿病やそのための治療をより負担に感じていた。

【保護者】

回収 A 群 24/65 B 群 24/63

Q 糖尿病のお子さんの人生を大変だと感じるがありますか。

	全くない ほとんどない	時々	よくある いつもある
A 群	4%	13%	83%
B 群	0%	46%	54%

A 群でやや負担が大きい傾向にあったがその他の質問項目における回答に大きな差は認めなかった。

Q 親の就労、学歴

A 群の母親は B 群に比べると学歴が高く、常勤で働く割合が高かった。父親の就労、学歴に関しては 2 群間にほとんど差は認めなかった。

【主治医】

回収 A 群 53/65 B 群 52/63

Q 患者さんを取りまく環境に問題がありますか。

	ある	ない
A 群	81%	19%

D. 考察

血糖コントロール不良の患者においては病気が日常生活の大きな負担になっている可能性が示唆された。また、コントロールが悪い原因の一つとして患者を取り巻く環境に何らかの問題があることが考えられ、コントロール改善のためにはこのような患者に対して医療者の適切な心理面でのアプローチが重要と思われた。